

# 月の館

信濃観月文庫

## 通信

おみ  
麻績村  
発行 / 信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村麻 8059-2

TEL・FAX (0263)67-3933

### 第22号

はるせんりんにいれば しよしよにはな

### 春入千林処々花

あきはばんすいにしすむ かかのつき

### 秋沈万水家々月

感謝

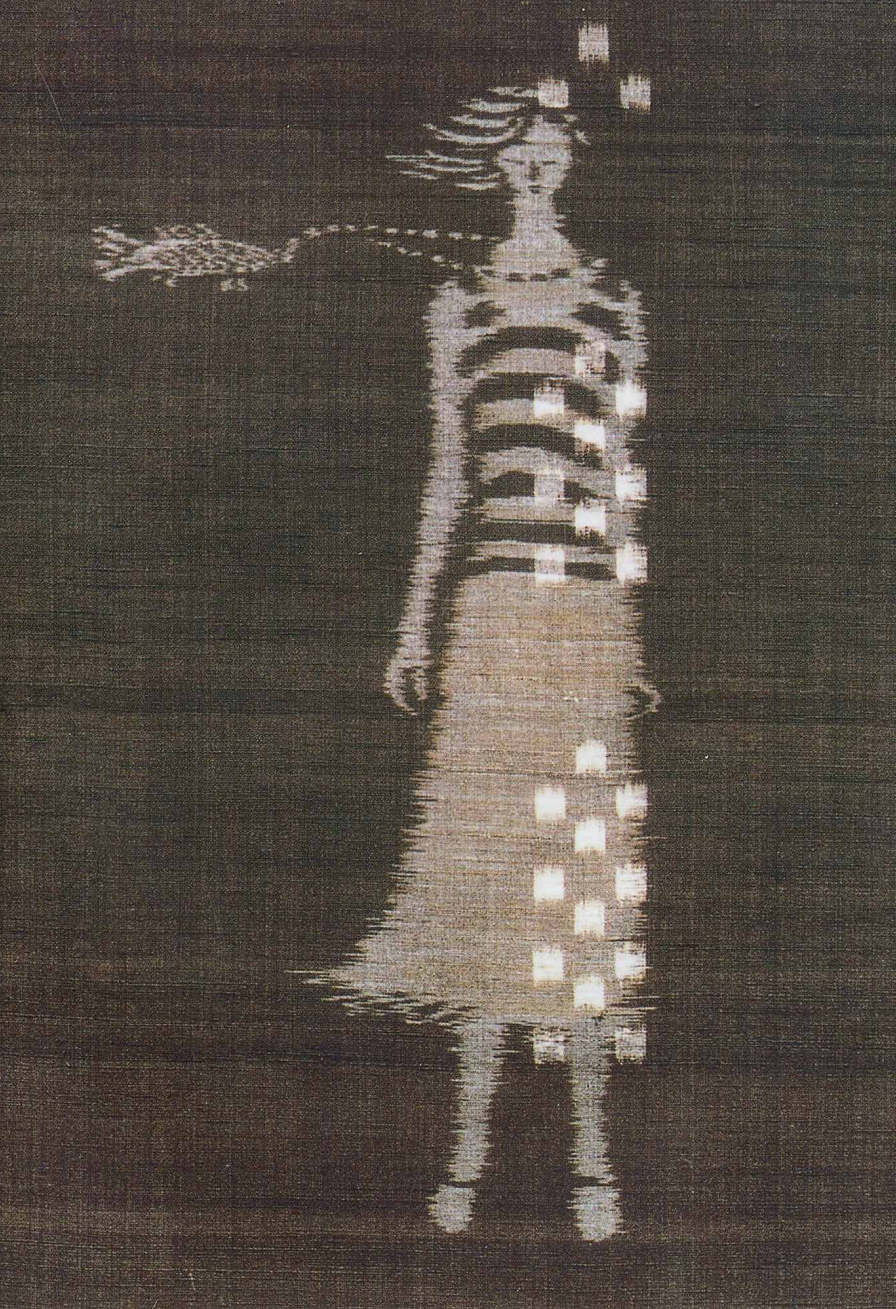


麻績村  
信濃観月苑  
平成二十四年  
九月八日  
窪田孟恒

# 私の観月苑

更級花織工房 主宰 窪田孟恒





春、県外の個展から帰ると、麻績の観月苑へ行くのが待ち遠しくなります。

倉科から千曲橋を渡り、武水別神社の杜を抜け、猿が馬場峠を越え麻績の里に着きます。

美しく整備された自然の中に静かな佇まいの観月苑に入ると、茶室の庭に、おみなえし、なでしこ、はぎ、すすき、ききょう等の花が咲いている姿に出逢え、当時歩いて峠を越え、盆花採取に行ったときの苦しかったこと、清水のおいしかったこと、たくさんの花が採取出来た嬉しさ等、小学生の頃の思い出が蘇って来ます。「あの頃は、どうしてあんなに何事にも夢中になれたのか」自省し次の創作への力を得る場所が、観月苑なのです。

「好きなあんずの花の下で仕事がしたい」とあんずの里、倉科へ工房を作り緋（デザインを元に糸を染める部分と染めない部分を作り、それを組合わせて模様を織る）を化学染料を使って織っていましたが、思うように緋が織れず「織り



▲信濃観月苑展示風景

進めるか、止めるか」の辺境にあったとき、あんずの幹の美しい色に出会いました。手間のかかること、堅牢度に不安があると思い込んで、今まで避けて来た植物を染めることになりました。化学染料の幾十倍の時間がかかりますが、染め重ねているうちに力強い染料であることが解りました。

三十年間あんずの木の染料「二色」で絣を織りつづけて来ました。これからもあの頃の、絶望の闇とあんず色の光を常に対峙させ、語り、測り合いながら染めつづけて行きたいと思えます。

まだまだ拙い私の作品ですが、皆さまに御高覧賜り、御指導御鞭撻のほど御願ひ申し上げます。



# 「古姨捨山から長楽寺」を歩く

善光寺街道協議会会長 小瀬 佳彦



聖高原駅を降りると、駅前  
に歌碑公園があります。善光  
寺街道を麻績から姨捨まで歩  
く旅は、この公園の歌碑から  
始まります。

更級や姨捨山の高嶺より

嵐をわけて出づる月影

これは藤原定家とともに鎌  
倉時代初期を代表する歌人、藤  
原家隆の『新勅撰集』の一首。  
姨捨山から月が昇る情景を、更  
級の里で詠んでいます。麻績  
は古くは麻績郷といい、更級  
郡に属していました。そして、  
当時の姨捨山は冠着山でした。  
ですからこの和歌は冠着山か  
ら昇る月を、その西に位置す  
る麻績において詠んだことに  
なります。

「あれが冠着山、古い時代の姨  
捨山です。」

と、東の方向を指差します。

「皆さん、家へ帰ったら長野県  
の地図を開いて確認してくだ

さい。筑北村の北端と千曲市  
との境にある冠着山は、カッ  
コ付きで姨捨山と明記されて  
いるはずですよ。このような二  
重表記は大変珍しいことす  
よ。」

遠方から来られた方には、冠  
着山と長楽寺はまったく別の  
場所であることを伝えておか  
なくてはなりません。

「今日の歩き旅は、いにしえの  
都人が和歌に詠んだ古姨捨山  
と、俳諧の聖地長楽寺の姨捨  
山、この二つの姨捨山を歩い  
て巡ります。」

姨捨山が二つあるとは、なか  
なか理解しがたいことですが、  
この旅でその謎を解いていき  
ます。

善光寺街道協議会では毎年、  
中山道洗馬宿（塩尻市）から善  
光寺までの約八十kmを十回の  
行程で歩き繋ぐ「善光寺街道  
巡礼歩き旅」を催しています。  
善光寺街道の名所旧跡を訪ね、  
昔の旅人の足跡を辿ります。姨  
捨は古来「花の吉野、月の姨捨」  
といわれた名所中の名所です。  
街道歩きでは回り道となりま



▲稲荷山宿から冠着山を望む

ですが、これを外すわけにはま  
いりません。

俳聖松尾芭蕉もこの街道  
を旅しています。貞享五年  
(二六八八)の『更科紀行』です。  
その目的は「おぼすて山の月見  
んこと」でした。後に芭蕉を  
敬慕する俳諧師たちが、こぞつ  
て姨捨山の月を求め、長楽寺  
へやって来ました。その長楽  
寺の姨捨山とは、境内にある  
姨石(岩)なのです。江戸時  
代には姨石の上から見た月が、  
姨捨山の月でした。仲秋には  
遠く東に連なる山並みの一つ、  
鏡台山から月が昇ります。鏡台  
山とはまさにこの情景から名  
付けたのでしょう。月を鏡に見

立てた実にうまいネーミング  
です。姨石、田毎の月、更級川、  
雲井橋、冠着山も含め十三の  
風景を「姨捨十三景」と称し、  
一枚刷りの絵図が土産物とし  
てもてはやされました。その  
昔長楽寺には相当やり手なブ  
ロデューサーがいたわけです。  
それも何代にもわたって。

善光寺街道を歩きながら、な  
ぜ姨捨山が長楽寺に移ったの  
か、話を続けます。冠着山が  
姨捨山だった頃、信濃の国の  
天下の大道は東山道という道  
でした。麻績郷にはこの支道  
が冠着山を指して通ってお  
り、冠着山が大きな目印となっ  
ていたものと考えられます。そ

の名残でしょうか、麻績宿の通  
りと冠着山が絵に描いたよう  
に美しく重なる場所がありま  
す。これは冠着山の北方に位  
置する稲荷山宿にも共通しま  
す。冠着山がいかに特別な山で  
あったかという証でしょう。

古代の道に代わり猿ヶ馬場  
峠を通る新しい道が開きまし  
た。これが北国西往還(善光寺  
街道)です。開通の時期は室  
町時代とも戦国時代とも言わ  
れて定かではありません。一  
方、これも時期がはっきりと  
しません。麻績郷は更級郡  
から筑摩郡へと変わり、更級  
の里ではなくなっていました。  
そのような状況の下、姨捨山  
と田毎の月が一緒に登場する

狂言本、『木賊』が世に出てき  
ます。永正十四年(一五一七)  
のことです。この時代に長楽  
寺の姨捨山が盛んに宣伝され  
たのではないかと思われます。  
そして江戸時代には、それが  
定説になっていました。

歩き旅は猿ヶ馬場峠を下り、  
火打石茶屋跡を通り過ぎて「オ  
バステチカミチ」なる古い枝道

善光寺街道枝道歩き 麻績村通行手形

善光寺街道を歩いた人や、歴史に興味  
がある人におすすめのガイドマップ。「麻  
績村むらごと博物館事業」として、村と  
関係団体との協働により実現した。地元  
案内人による詳細な地図に解説を入れ、  
見所ではスタンプを押すことができる。  
初版は「古姨捨山から長楽寺」「信濃の札  
所と伊勢巡り」「麻績宿から福満寺」の  
3冊と麻績村周辺の全体マップ1枚。4  
月より村の関係施設にて入手可能。  
問い合わせ：村づくり推進課 0263 (67) 3001

◀麻績宿から冠着山を望む



に逸れます。鬱蒼とした林を通り抜け、善光寺平が一望できるようになります。ようやく長楽寺へたどり着きます。旅人はさっそく姨石に上り十三景の一つ一つを確かめます。

「今皆さんが立っているこの岩が姨捨山です。長楽寺の縁起はこの岩が舞台ですし、山号もまた姨捨山です。」  
 そう言って説明を終わります。旅人は自らの足で二つの

姨捨山を体感するのです。

二つの姨捨山はどちらが偽物で、どちらが本物というものはありません。どちらも姨捨山の長い歴史を築いてきました。さらに言えば、明治の『冠着山復権運動』を興した塚田雅丈の郷嶺山（千曲市羽尾）や、「姨捨」の語源「おはつせ」に由来する長谷寺の篠山（長野市塩崎）も姨捨山ゆかりの地に加えるべきでしょう。どの姨

捨山も肯定することで、私たちはより豊かな姨捨山の月を後世に伝えることができます。「古姨捨山から長楽寺」これは姨捨山への古くて新しい旅路です。

聖高原駅に歌碑公園を造った先輩方の見識に敬意を表しながらも、姨捨山初見の和歌「わが心慰めかねつ更科や姨捨

山に照る月を見て」（『古今和歌集』読み人知らず）の歌碑のないことが残念でなりません。この歌から始まった「姨捨山の月」が、街道歩きとともにさらに進化することを望みます。なぜなら、「おばすて山の月見んこと」を、未来の芭蕉たちが待っているのですから。

### 小瀬佳彦活動経歴



- 平成18年（2006）
- 3月 シンポジウム「祈りの道 善光寺西街道ルネッサンス」開催。
- 4月 「街道歩き調査隊」を編成し、善光寺街道の実地調査を行う。
- 19年（2007）
- 3月 「善光寺西街道宿場サミット」開催
- 参加団体16 来場者200人
- 以後3回にわたり継続。
- 20年（2008）
- 5月 善光寺街道協議会設立
- 参加団体19 参加者57名
- 21年（2009）
- 5月 「善光寺街道巡礼歩き旅」開始
- 31名踏破。以後毎年開催。
- 12月 熊野古道視察開始。以後年一回継続。
- 22年（2010）
- 3月 宿場サミットにかわり「善光寺街道 道の文化祭」開催。以後年1回継続。
- 4月 特定非営利活動法人善光寺街道歩き旅推進局設立。善光寺街道協議会の事務局を担う。
- 23年（2011）
- 5月 地元案内人の駅伝による巡礼歩き旅始まる。
- 24年（2012）
- 11月 冊子「善光寺街道の近代を歩く」刊行。
- 12月 熊野古道視察終了。

# ギャラリー展

## 写仏教室作品展

3月3日(日) ~ 5月11日(土)  
出展/山口勝人 写仏教室受講者

## 柳沢京子切り絵展 (新)

6月4日(火) ~ 6月9日(日)  
出展/ 柳沢京子

## 藍友禅 橋詰清貫の世界展

6月14日(金) ~ 6月16日(日)  
出展/橋詰清貫

## HIJIRI 聖 ART EXHIBITION 作品展

7月1日(月) ~ 8月18日(日)  
出展/窪田明仁・久保田優子ほか

## 「あんず染絵絣の世界」展

8月22日(木) ~ 8月28日(水)  
出展/窪田孟恒

## 日達れんげ切り絵展 (新)

9月1日(日) ~ 9月16日(月)  
出展/日達れんげ

## 田村しず布作品展 (新)

9月21日(土) ~ 10月6日(日)  
出展/田村しず

## 篠田弘明作陶展 (新)

10月11日(金) ~ 11月6日(水)  
出展/篠田弘明

## 工房ととか 作品展 (新)

11月16日(土) ~ 11月24日(日)  
出展/ 筑北村 菊地克典(木工) 智子(陶芸)

法善寺所有の軸、巻物、短冊などの常設展もお楽しみください。

冬季間は常設展となりますが、企画展を行うこともあります。(月の里俳句小中学生入選作品短冊展示など)

## 観月苑文化講座

参加者募集中

### 山口勝人写仏教室

【第1土曜日】

14:00 ~ 16:00

会費/前期・後期とも

各5,000円

講師/安養寺住職山口勝人

### 御詠歌教室

【第1水曜日】

13:30 ~ 15:30

会費/前期・後期とも

各5,000円

講師/法善寺大屋明子

### 新講座 小林一茶の世界

【第3木曜日】

4月から始まります

10:00 ~ 11:30

会費/月1,000円

(前期・後期とも)

各6,000円

講師/「岳」同人窪田英治

### やさしい着付教室

【第1・第3水曜日】

第1水/10:00 ~ 12:00

第3水/13:30 ~ 15:30

会費/月2,600円

(12回シリーズ)

講師/前結び美装流助教授

浅野和子



# 催し物 案内

## 第14回曼陀羅の里 お月見俳句大会 10月19日土

13:00～16:00  
当日句 2句（自由題）  
会費／1,500円  
（投句料・聴講料・懇親会費）  
選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子  
「黒姫」主宰・神田北童  
「岳」編集長・小林貴子  
「梟」同人・水上孤城

## 第21回月の里俳句作品募集

募集締切 8月31日土

大人 3句一組（何組でも可） 投句料／1,000円  
小学3年生～中学生 2句まで 投句料／無料  
選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子  
「黒姫」主宰・神田北童  
「岳」編集長・小林貴子  
「梟」同人・水上孤城

## 第20回紅葉がりの茶会 10月27日日

受付／10:00（受付終了14:00）  
定員／150名 会費／3,000円

濃茶席 耕月軒  
表千家流 金井宗美社中  
薄茶席 観月堂  
裏千家 福原宗富社中  
点心席 月の館大寄せの間



## 茶室清香亭月釜

松林のなかの茶室にて季節のお点前をお楽しみください。  
時間 10:00～15:00 日時は変わることがあります。  
会費／600円  
点心&お抹茶 2,500円（要予約。3名様以上）

- 4月29日 武者小路千家 亀の香り茶稽古の会（松本市）
- 5月12日 裏千家 小山宗道社中（長野市）
- 5月19日 裏千家 公民館茶道クラブ（麻績村）
- 6月16日 石州流 芳香庵松悠（筑北村）
- 6月23日 裏千家 山中宗艶社中（長野市）
- 7月28日 裏千家 島津宗純社中（長野市）ゆかた茶会
- 8月4日 表千家流 鈴木康之（名古屋市）
- 8月25日 裏千家 東方宗満社中（長野市）
- 9月8日 武者小路千家（予定） 亀の香り茶稽古の会（松本市）
- 9月22日 表千家流 清流会（筑北村）

## 秋の楽しい音楽会 みんなで歌いましょう！ 合唱指導とテノール独唱

10/13 14:00～16:00

場所／月の館大寄せの間  
講師●テノール独唱／島津 和平  
ピアノ伴奏／関崎 千奈美

## 遠山望・山川拓也 デュオリサイタル

11/30 13:30～15:30（予定）

場所／月の館大寄せの間  
講師●サクソフォン／遠山 望  
ピアノ／山川 拓也

【曲目】  
アルトサクソフォン  
協奏曲（全曲）  
クレストン  
スロヴァキアン・  
ラブソディ  
加藤昌則

# 素晴らしい サクソフォン

## 遠山望

観月苑でコンサートをさせて頂くのは、四回目となります。豊の和室大広間にグランドピアノ、そしてサクソフォンという、和洋折衷の組み合わせですが、程良い響きの空間で、毎回気持ちよく演奏させて頂いております。

サクソフォン：一般的には「サククス」という名称で知られておりますが、この名称、実はこの楽器を発明した人の名前なのです。ベルギー人の楽器発明家、アドルフ・サククス（1814～1894）によって、19世紀に産声をあげました。ですから、まだ歴史の浅い、新しい楽器であります。

そのサクソフォンが、一躍世界的に有名になったのは、アメリカにおいて、ジャズで使われるようになってから、という

のが定説となっております。翻って、

クラシックの世界でのサクソフォンは、近年定着してまいりましたが、他の例えばフルート、トランペットといった楽器に比べますと、マイナーな存在である事は、残念ながら認めません。更に更に、この楽器の素晴らしさを伝えていきたい！という思いは、私も含めたクラシックを原点として、19世紀に産声をあげた、共通した強い思いではないか、という気がしております。

さて、今回のコンサートでは、メインプログラムとして、サクソフォン協奏曲と、



サクソフォンのために書かれた、オリジナル作品を演奏いたします。協奏曲は前回のコンサートで、第1楽章のみを演奏いたしました。今回は、第2・3楽章も加え、全曲演奏です。オリジナル作品は、今回が初披露となります。

クラシックの曲というと、難しそう、とつつきにくそう、といった印象を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、

### やまかわ たくや 山川 拓也プロフィール

松本市出身。5歳よりピアノを始める。武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。

ピアノを茅野元子、小林香織各氏に師事。

大学在学中は、ピアノを宮澤晴子氏、指揮法を谷口雄資氏、作曲法を坂幸也氏に師事。

ピアノソロだけにとらわれず、他楽器とのセッション等も数多く行っている。

卒業後は、松本市内を中心に、後進の指導や演奏活動に活躍している。

### とおよま のぞみ 遠山 望プロフィール

1975年大町市出身。国立音楽大学附属音楽高校、及び同大学器楽学科サクソフォン専攻卒業。現在、長野県各地に於いて、演奏、レッスン、吹奏楽団・合唱団指導を行い、近年は東京へも活動の場を広げている。

サクソフォンを石渡悠史、下地啓二、指揮法を伊藤栄一、声楽を及川愼の各氏に師事。

女声合唱団アンサンブル・ピュア（大町市）常任指揮者。

東京都町田市立金井中学校吹奏楽部コーチ。

# 第二十回月の里俳句入選作品

一般の部

## 佐藤文字選

特選

夕立に追いかける農婦かな  
落し水草むらの声静まれり

宮下志花子  
清水三千穂

秀逸

秒針の疲れ知らずや昏寝覚め  
耳遠き夫に届けと虫時雨  
黄昏れて芒に風の遊び来る

吉田 長久  
田中 竹子  
市野瀬今朝男

特選

四阿屋山の風駆けめぐる夏座敷  
白秋の水ばさと搏つ鯉の鱗

若林雄一郎  
曾根原幾子

秀逸

木洩れ日の光と影に水を打つ  
這つて来しものと話して草を引く  
向日葵や顔まんまるな村の子等

種山せい子  
三輪 浅茅  
稲沢 礼子

## 神田北童選

## 小林貴子選

特選

朝焼けの巖かにして不気味なり  
十六夜や巻螺子堅きオルゴール

清水三千穂  
北沢 雅子

秀逸

新ニホ藁に埋るる仔牛ほの温し  
科木の花や引戸の磨硝子  
沖繩の香焚き盆の飾りとす

玉井 安雄  
小伊藤美保子  
土橋 俣子

特選

磯笛に寄する卯波の白さかな  
十六夜や巻螺子堅きオルゴール

田澤 博  
北沢 雅子

秀逸

向日葵や顔まんまるな村の子等  
二十歳の子祭囃しはラテン調  
庭石の座椅子に似たりあたたかし

稲沢 礼子  
市川 喜久  
田中 公平

## 水上孤城選

これらの2曲は、親しみやすい素晴らしいメロディーの宝庫、といえるような作品であります。ぜひこの機会に、クラシカル・サクソフォンの世界をお楽しみ頂ければ、と思っております。

もちろん、皆様きつとご存知なのでは？という曲も、演奏いたします。ジャズのスタンダードや、ちよつと早いクリスマスソング、そして観月苑での

私達のコンサートで、定番としております「東北応援ソング集」と銘打ったコーナーでは、東北ゆかりの演歌や歌謡曲等も、演奏いたします。更に、これも定番となりました、サクソフォン、ピアノそれぞれのソロ曲を、今回も演奏いたします。大変盛りだくさんのコンサートです。

このように、サクソフォン

という楽器は、どんなジャンルの曲でも、演奏できる楽器であります。そこに、サクソフォンの何倍もの長い歴史のある、ピアノという楽器を加えたデュオ（2重奏）は無限の可能性を持っている感が、私としてはあります。

今回から、コンサートのタイトルを「遠山望、山川拓也デュオリサイタル」といたしました。私達2人の演奏において、

ピアノは「伴奏」ではありません。サクソフォンとピアノの「共演」であり、時には「協演」や「競演」もいたします。そんな演奏の中での「会話」なども楽しんで頂けたら、と思っております。このような空気を味わえるのも、生演奏ならではのです。

秋のひととき、皆様のご来場を、心よりお待ち申し上げます。



耕月軒の降りつくばい

## 信濃観月苑をご利用ください

### 小間の茶室「清香亭」

■利用料金／1会 10,000円



### 広間の茶室「耕月軒」

■利用料金／半日 5,000円・1日 10,000円



### 大寄せの間 (2F 40畳和室) ステージ付

お茶会、お稽古、句会、研修会、コンサート会場などにご利用ください。

■利用料金／半日 3,000円・1日 6,000円



広く文化活動や研修会、お茶会等にどうぞ  
お問い合わせ・ご予約 TEL/FAX 0263-67-3933  
メール kangetu@vill.omi.nagano.jp

### ギャラリー 展示発表の場としてご利用ください。

■利用料金／半日 5,000円・1日 10,000円



### 音楽ホール

コンサート、発表会などにご利用ください。  
グランドピアノ KAWAI GM-10

■利用料金／半日 5,000円・1日 10,000円



### 観月堂

お茶会、句会、月見の宴などにご利用ください。

■利用料金／半日 5,000円・1日 10,000円

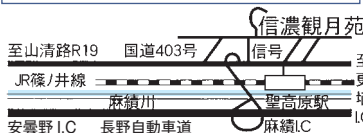


## 信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村〒399-7701  
TEL/FAX (0263) 67-3933

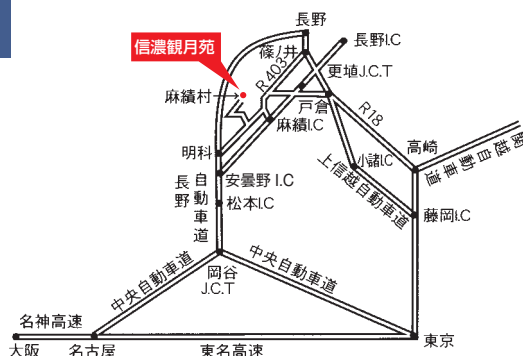
開苑時間 午前9時～午後5時  
休苑日 毎週火曜日  
入場料 個人 高校生以上 300円  
          小人 150円  
          団体 20名以上2割引

お抹茶 600円  
点心 2,000円(3名様より。要予約)



麻績村のホームページ <http://www.vill.omi.nagano.jp>

信濃観月苑のホームページ <http://omigoto.vill.omi.nagano.jp/kangetsu>



表紙

月に、花に、おだやかな毎日に感謝。

3.11 から 2 度目の春、子供たちはじめ小さな命がすこやかでありますように…